

稜友

June 2014, No.234



残雪の鳥海山 (5月)

新潟稜友会

Home page http://homepage3.nifty.com/niiigata_ryoyu/

巻頭言

昨年に引き続きとあるクラフトフェアに行ってきた。

昔からぶどうやアケビの蔓などの自然素材を用いてのものづくりが盛んだった土地だとかで、地元から出店しているお店が多い。そのせいか、家族総出で店番しているところも多く、お昼時になるとお店の奥では地元で取れた山菜料理なんかを囲んでちょっとしたピクニックが始まり、なにやらほほえましい。遠方から出店している作り手さんもたくさんいる。その作り手さん達は日本各地で開催されるクラフトフェアを転々しているらしく、そこですでに顔なじみとなっているようで、あちこちで挨拶が交わされている。お客さんもリピーターが多く、作り手さんとの会話が弾んでいる。私も去年行った陶器のお店に顔を出すと覚えていてくれて、ドリップコーヒーをごちそうになった。ゆったりとした時間が流れていて、とても心地いい。

手間暇掛けて手作りされているだけあって、売られているものは高くて手が出ないのがほとんどだ。それでも足を運んでしまうのは、見事な手仕事品を見たいと思うのと同時にそういった雰囲気味わいたいという気持ちもあるからなのだろう。

(関川)

来月の巻頭言は橋本(寅)さんです。

2014年 例会年間予定

例会日	担当	例会内容	備考
1月15日(水)		公募登山の準備	
2月19日(水)		公募登山の準備	
3月19日(水)		事故発生時の対応	
4月16日(水)			
5月21日(水)			
6月18日(水)			
7月16日(水)			
8月20日(水)			
9月17日(水)			
10月15日(水)			
11月19日(水)		総会の議題協議	
12月6、7日(土・日)		6日-忘年会、7日-総会	
12月17日(水)			

2014年 今月のコラム・巻頭言・編集担当者・原稿締切日一覧

月	今月のコラム(*)	巻頭言	編集担当者	原稿締切日
1月	大島	海老名	大島	1/04(土)
2月	海老名	大島	大島	2/08(土)
3月	金子	小川	大島	3/08(土)
4月	佐藤(孝)	小杉	大島	4/05(土)
5月	設楽	鈴木	関川	5/10(土)
6月	杉田	関川	三木	6/07(土)
7月	須藤	橋本(寅)	関川	7/05(土)
8月	中村	肥后(明)	関川	8/09(土)
9月	橋本(聡)	丸山(和)	三木	9/06(土)
10月	橋本(寅)	三木	小川	10/04(土)
11月	丸山(和)	大西	肥后(明)	11/08(土)
12月	大西	金子	大島	12/06(土)

(*) 秘湯、レシピ、こだわりの道具、子育てなどなど、各自自由なテーマで執筆。

2014年公募体験登山が以下のように決まりました。

時期	山行内容	担当	予定候補
3月9日	雪山体験、スノーハイク	金子	川内山塊宝蔵山
4月13日	早春トレッキング	関川	八石山
5月11日	クライミング体験	海老名	杉滝岩
8月31日	沢登り体験	海老名	三国川十字峡
10月19日	紅葉トレッキング	金子	信越トレイル
11月16日	初冠雪トレッキング	金子、海老名	谷川岳天神尾根

稜友会ホームページにも掲載されていますので、内容を確認して下さい。

担当は変更される場合もあります。

山行報告

日程	山域(形態)	メンバー
5月3~5日	燧ヶ岳、会津駒ヶ岳(山スキー)	関川
5月3~5日	烏海山(山スキー)	佐藤(康)、友人1人

5月4日	大山（夏道往復）	L. 橋本(寅)、佐藤(孝)、杉田、大島
5月5日	氷ノ山（縦走）	L. 橋本(寅)、佐藤(孝)、杉田、大島

燧ヶ岳・会津駒ヶ岳(山スキー)

2014年5月3～4日

メンバー：関川

5月3日

のんびりと土曜日出発し日・月曜日で山へ行こうと思っていたが、月曜日が崩れるとの天気予報。

予定を変更し、金曜日に仕事が終わると即出発。檜枝岐まで行くつもりが眠さに負けて、途中の南郷村の道の駅で車中泊した。

朝6時過ぎ、檜枝岐着。御池への道は7時まで夜間通行止めだ。開通待ちの車の列に並ぶ。

御池駐車場よりスキーで登り始める。初めて来るので例年と比べどうなのか分からないが

積雪はたっぷりあるように感じた。広沢田代、熊沢田代、と次々と現れる湿原(雪原)を夏道沿いに登って



いく。天気がよく頂上手前の斜面にスキーヤーやらつぼ足の登山者やらが取り着いているのがよく見える。雪質はあまりいいとは言えず、時折出てくる急斜面の登りは足元が安定してくれず、ちょっと大変だった。4時間弱で俎岩に到着。尾瀬沼、尾瀬ヶ原、越後三山 etc 360度のパノラマだ。至仏山を見るとあちこち黒い山肌が出ている。3~4年程前のGWに尾瀬ヶ原から眺めた時は、確か真っ白だったような…やっぱり今年は雪が少なかったようだ。

柴安岩には行かず 1時間ほどそのまま俎岩でまったりし、下山開始。登りと同じルートで滑り下り、あつと言う間に御池に到着した。

当初の予定では御池で車中泊して2日目も燧ヶ岳に登り違うルートを滑ろうと思っていた。

が、下山時間も早かった上、なんとなく気が進まなかったこともあって、急遽会津駒ヶ岳に転進することにした。檜枝岐村へ降り、明るい内に滝沢登山口を確認。雪がどこから出てくるのかその点が気になっていたの、ちょうど下山してきた人がいたので聞いてみると、1時間ほど登ったヘリポート跡手前からスキーが使えるという。その程度であれば全く問題ない。登山口そばの駐車場で2泊目の車中泊をする。

5月4日

今日もいい天気だ。早朝からどんどん登山者を乗せた車がやって来る。端っこに駐車していた私の車の隣りにもやってきた。身支度を整え、車を降りて挨拶すると、知り合いの東京のTさんだった！思いもかけぬ再会にお互いびっくりする。事前情報通り、滝沢登山口からしばらくはスキーを担いで歩き、ヘリポート跡少々手前の急斜面からシール登高スタートする。

雪はまだ固く、斜面は緩むことなくずっと下まで続いている。コケたら止まらないな、と思いつつ、おっかなびっくり歩を進めるとヘリポート跡と思われるちょっとした広場に出た。そこからは傾斜はそれほど強くなく、若干藪っぽかったものの気持ちよく尾根伝いに登っていく。ツガの林を抜けると、視界が広がって会津駒ヶ岳が姿を現した。駒ヶ岳山荘には寄らずにトラバース気味で登っていき、お昼ちょっと前に山頂に着いた。少々もやっていたが、昨日に引き続き360度のパノラマ。しばらくすると小屋に寄ってきたというTさんパーティーが到着。ここでも1時間ほどまったりタイム。ツボ足メンバーがいるTさんパーティーは先に降りていった。頂上直下から東に広がる斜面は滑ると気持ちよさそう。けれども、調子に乗って下まで滑っていくと戻るのが難儀。ほんのちょっとだけ滑り、あとはトラバースして登ってきた尾根に戻る。滑り始める時に飛んできたヘリが、下る先でホバリングしているのが見えた。多分事故だな…と思い滑っていくと、5人ぐらいのパーティーが立ち止まっていたので、「事故ですか？」と聞くと携帯電話でしきりに話しをしている人と、困ったような表情で振り向く人が目に入った。事故を起こしたパーティーだ、とすぐ分かった。大変な時に無神経に声を掛けてしまい、とても気まずかったので、それ以上は話しはせずすぐにその場を離れた。しばらくいくと左手の沢底に2~3人いるのが見えた。頭上にはヘリがホバリングし、担架を下している。事故者だ。軽いケガで済むとよいけど…願って下部の藪に少々苦勞しながら雪が消えるギリギリまで滑り降り、ふたたびスキーを担いで、滝沢登山口まで下山した。帰宅後、ネットでニュースをチェックすると滑落者は2名で一人は腹を打ち重傷、もう一人はケガもなく済んだとのこと。最悪のケースに

至らず良かったと思うのと同時に、山に行く際は私自身も事故を起こさぬよう気持ちを引き締めねばと思
った GW 山行となった。

(関川)

鳥海山 (山スキー)

2014/5/3 天候 晴

5/4 天候 晴のち曇り

5/5 天候 曇のち小雨

25000 分の 1 地形図「鳥海山」

メンバー 佐藤(康)

5/5 のみ友人 1 人

5/3 祓川～七高山～新山～千蛇谷～祓川

5/4 中島台～千蛇谷～新山～千蛇谷～中島台

5/5 祓川～七高山～新山～千蛇谷～祓川

※全て日帰り

5/3 朝ゆっくりし、雪が緩むのを待って祓川ヒュッテへ、意外にも車少なく、上部の駐車スペースに車を
停める。

友人の車は既に止まっており、入山した模様。坦々と登り、七高山周辺で追いつく。お互いルートは違う
ので、七高山で別れ新山、千蛇谷を経由して祓川ヒュッテに戻る。途中雪がつながっているか？不安で
あったが杞憂。

これだったら友人を誘ってもいいと感じた。

5/4 2年前、あまりの雪の少なさに断念した。中島台からのルートに挑戦。

林道終点から雪がついており快調に林道を詰めたが、2年前断念した渡渉部分はほぼ同じ感じ。

4 回ほどスキーを脱いで渡渉。素直に登山道を歩けば良かったと後悔する。しかしその後は快適。静かな
ブナ林を独り歩くのは気持ちがいい。やがてブナ林を抜け、鳥海山北面の真っ白な斜面が現れる。あと
は微妙に硬くなったりする斜面を快調に詰めていたが、最後の七五三掛付近でスキーで登るのはチョイト
緊張するアイスバーン。先行者がツボ足？アイゼン？に替えようとしていたが、そこでスキーを流している。
ここでさすがに嫌気が差し、アイゼンに履き替え 10～20m程、担ぎあがる。あとは終始、快適スキー登高。
新山に登り、一気に千蛇谷を滑降。

もう渡渉する気はないので、登山道を下って帰った。

5/5 最終日、天候悪化するのとは分かっていたが、午前中に片付けることにして友人と2人で5/3のルート
を滑った。

七高山付近は硬い斜面で悪戦苦闘したが、あとは快適。ヒュッテにつく頃にはポツリポツリと小雨が降っ
てきたがなかなかいい山行。最後はシールで歩くのだが、このルートはお手軽でいいです。

3日間なかなか楽しめた山でした。

今度は新山から北面とか鳥海ぐるぐる一周とか、いろいろトライしたくなりました。

佐藤(康)

大山 (夏道往復)

L. 橋本(寅)、佐藤(孝)、杉田、大島

5/4

前日の6時過ぎに麓の大山寺に到着。暗くなる前に参道脇の公衆便所の裏手にちょうど手頃なテン場
を見つける。日中晴天で暖かかったが、流石に沢筋とあって冷気が降りてくる。前夜(5/2)、9時前？に
新潟を出発、福井の三方五湖脇でテントを張り、翌朝三方五湖を観光した後、天橋立は車の多さで諦め、
一路大山を目指したがやはり遠かった。暗くなる前に着きラッキーだった。

朝6時半ころ出発、既に多くの登山者が山頂を目指しており、次から次へと登ってくる。六合目避難小
屋あたりから登山道に残雪が現れるが、陽が当たる登山道にはほとんど雪は無い。山頂に近づくにつれ
て風が強くなる。山頂付近は木道が整備されており、地面を直接歩くことはない。

9時前に頂上小屋の裏手の、登山者が沢山集まっている山頂(?)に到着。先行していた杉田さん孝
栄さんとようやく合流する。登山口の標高が800m近くあるので、登山口からそんなに時間はかからない。
快晴で眺めが良く、中海や宍道湖の端まで見える。剣ヶ峰方面を眺めるとうわさ通り崩壊がすさまじい。
三角点のある弥山へも、もちろん立ち入り禁止のロープが張ってある。記念撮影を済ませ、頂上小屋の
脇でフライを張ろうとしたら、管理人からダメと言われ、しかたなく無人の小屋に入りゆっくりすると、次々と
登山者が入ってきて、あっという間に満員状態になる。おかしなもんだ。10時過ぎに下山開始、六合目
避難小屋の上から雪渓が下の堰堤まで続いているのを見て、寅さんが雪渓を下ろうと提案。続々と来る
登山者を思うと、その方が気持ちがいい。全員ピッケルを用意していたので雪渓を下ることにする。雪の
状態がちょうどよく、それこそあっという間に元谷小屋下の堰堤まで滑り降りる。11時半、堰堤到着、堰堤
上でしばらく大山を眺めくつろぐ。

大神山神社の境内を通り、大山寺を見学しようとしたら、拝観料が必要だったためパス。広い駐車場に
戻り身支度をして次の目的地氷ノ山を目指す。

(大島伸幸)

氷ノ山（縦走）

L. 橋本(寅)、佐藤(孝)、杉田、大島

5/5

7:00 スキー場出発 8:45 三ノ丸小屋 9:50 山頂 11:30 下山 12:30 氷ノ山越え

わかさ氷ノ山スキー場は標高800m前後に駐車場があるが、こんな山奥にもかかわらず周囲には氷ノ山自然ふれあい館やコンサートが出来る建物がある。更に奥にはりっぱなキャンプ場があるようだ。到着してから登山口を探すがなかなか見つからない。大体の見当を付けてから駐車場にテントを張る。

夜半から降っていたのか、明け方から降り出したのか、霧雨状態の中ゲレンデの下からリフト沿いに登る。リフトの最終点でようやく立派な標識に出会う。ここから尾根通しで山道となる。三ノ丸小屋は2階建ての東屋で吹きさらしのため、じっとしていると寒くなる。ここからは緩やかな登り下りが山頂まで続く。残雪が豊富に残り、登山道の周囲は笹藪がびっしりと覆っている。小雨がなかなか止まず、展望は全くない。そうこうしていると、ひょっこり三角屋根の小屋のある山頂に到着する。寒いので小屋の中でフライを張り、暖を取る。誰も来ないと思っていたが、それでも二、三人は来たようだ。小屋を独占してすみませんでした。帰ろうとしていると、若い男性4人グループが入ってくる。軽装で靴も濡れている。キャンプ場から来たと言いき、軽い乗りでここまで来たようだ。見かねてフライの中に誘う。暫く暖まり元気よく下山していった。

山頂から氷ノ山越えまでは緩やかな下りが続く。氷ノ山越えにも小さいが三角形の小屋がある。ここから一気に急降下が始まる。途中数グループとすれ違う。多くの登山者はキャンプ場から来るようで、途中にキャンプ場への分岐があり、新しい道標も立っていた。この分岐を過ぎると、道は急に寂しくなり、そのうちキャンプ場からの道にとって代わるのだろう。国道に出ると“延命水”があり、ありがたくポリタンに詰め、若桜ゆはら温泉ふれあいの湯で二日間の汗を流す。

(大島伸幸)

今月のコラム

久しぶりに、端っこだけど朝日連峰を歩いてきた。

思いのほか沢山の花に会うことができ、大満足の山行だった。

ミズバショウ、紫や黄のスマレ、カタクリ、ショウジョウバカマ、イワウチワ、イワナシ、キクザキイチゲ、オウレン、イワカガミ、ツバメオモト、ムシカリ、タムシバ、紫や橙のツツジ、マンサク、ミネザクラ・・・。

そんななか、たった一輪しか見るができなかった花がある。それは、白花のカタクリ。

図鑑を開いたら、「紅紫色の花を斜め下向きに1個つける」とあるが、白花のことにはふれていない。

私は、この山行以前に一度だけ出会ったことがある。

日の光を浴びると、おもいきり花びらをそり返す。

同じように咲いていても、紅紫の花は元気いっぱい、白花は可憐ではかな気に見えるのは私だけ？
7～8年という長い長い時をかけて、やっと花を咲かせるカタクリ。

早いこと、即結果が出ることを良しとしがちな世の中。ちょっとカタクリを見習えばいいのになあ。

(杉田千佳子)



(写真提供: 田川和夫さん)

来月のコラムは須藤さんです。お楽しみに。

● 会費について

☆会員 年会費 9,000円 (夫婦会員は2人で16,000)
 保険料 5,000円～ 月割可 (詳細は金子まで)

☆会報会員 年会費 1,000円 (月報の電子配信会員)

- ・ 1月末までに下記講座への振込をお願いいたします。

郵便局 記号: 11220 番号: 23683431 口座名: 新潟稜友会

- ・ 不明な点は丸山亮子まで

● 会員だけの掲示板が出来ました

山行計画、下山報告、住所変更、アドレス変更などに利用してください。
会のホームページの掲示板ページからもログインできるようになっています。
会員専用掲示板は一般公開されません。
公開してもかまわない記事は今まで同様掲示板に投稿してください。

アドレス：<http://8421.teacup.com/msudou/bbs>

携帯電話(iモードなど)からも閲覧、書込み可能です。

ID・パスワードは、知っている会員から聞いてください。

●万代市民会館集会室利用方法

最初に来館した人は、4階ロッカー室の稜友会の棚から、当日の日付が書いてある利用許可書1枚を持って1階受付に提出し、必要事項に記入の上、部屋のカギを受け取って会場に入って下さい。

●必ず守ってください

山行計画書、下山報告共に
金子・海老名
まで、FAX・メール・携帯電話等で連絡の事

次回原稿締め切り 7月5日(土) 担当：関川 まで

●原稿形式

形態を()で

日付は全角、西暦で

地図・地区もなるべくつけてください

鳥海山湯ノ台口(山スキー)

2000年6月3日(土)～4日(日) 2万5千円「湯ノ台」「鳥海山」

メンバー L.

3日 7:00 湯ノ台口 10:00 滝ノ沢小屋 …横書きで

本文

★(橋本寅信)…カッコでフルネーム

